

## 「ユーラシアの視点から見た家と直系家族」に関する京都会議

京都市の国際日本文化研究センターで1997年9月17日（水）～21日（日）にかけて標記の国際会議（“House and the Stem Family in Eurasian Perspective”）が開催された。同会議は同センターを中心として実施されている文部省創成的基礎研究費研究課題「ユーラシア社会の人口・家族構造比較史研究（ユーラシア人口・家族史）」プロジェクト（代表：速水融・同センター名誉教授／麗澤大学教授）の一環として行われ、組織者は落合恵美子・同センター助教授、速水融教授、Antoinette FAUVE-CHAMOUX 博士であった。同会議には歴史人口学、家族史を中心とする多数の研究者が内外から参加した。

初日の午前から2日目の午前にかけてはヨーロッパの直系家族をテーマに9報告（報告者：Juergen SCHLUMBOHM, Josef EHMER, Jim BROWN, Solvi SOGNER, Antoinette FAUVE-CHAMOUX, Andres BARRERA GONZALES, Karl KAZER, Beatrice MORING, Richard WALL）が行われ、最後にCarl MOSKとDavid REHERを中心に討論が行われた。2日目の午後から3日目の午後にかけてはアジアの直系家族をテーマに12報告（報告者：米村千代・永田メアリー、落合恵美子、中里英樹、黒須里美、永田メアリー、Hanhee HAHM, Sungjong PAIK／論文のみ、Khuat Thu HONG, Bhassorn LIMANONDA, 津谷典子, James LEE & Cameron CAMPBELL, Michel Cartier, Monica DAS GUPTA）が行われ、最後に坪内良博とChris WILSONを中心に討論が行われた。4日目の午前にはJim OEPPENによるケンブリッジ・グループのマイクロシミュレーションの紹介が行われた後、Richard SMITHとAntoinette FAUVE-CHAMOUXを中心としてユーラシアの視点から見た家と直系家族に関する総括討論が行われ、最後に今後の計画に関する説明と質疑応答が行われて学術的なプログラムを終了した。このほか初日の午後にはユーラシア・プロジェクトのプロジェクト室の見学が行われ、特に海外からの参加者の関心を集めた。

これまで速水教授のご尽力により西欧と日本との比較に関する国際セミナーは何度か開催されてきたが、今回は東南・南アジアや中東欧まで視野に入れた国際セミナーとなったことは画期的であり、それなりに大きな成果があったし、次の国際会議に向けての準備会議ともなった。ご自身の報告までされた上、非公式プログラムでも活躍された落合助教授のご努力に敬意を表する次第である。最後になったが、お体が完全に復調していないにも関わらず、全面的支援をされた速水教授にも謝意を表する次第である。

（小島 宏記）

## 日本環境経済・政策学会1997年大会

日本環境経済・政策学会（会長：佐和隆光・京都大学教授）の1997年度大会（大会実行委員長：井村秀文・九州大学教授）が1997年9月27日（土）～28日（日）の二日間にわたって北九州市の北九州大学で開かれた。今回は事実上の第2回の研究大会であり（第1回は昨年9月に中央大学で開かれた1996年度大会）、「アジアの環境問題(1)～(3)」、「環境価値と環境資源勘定(1)～(2)」、「環境政策諸手法の比較・評価(1)～(3)」、「資源・エネルギー・環境(1)～(3)」、「地球温暖化対策」、「環境保全意識・行動」、「地球規模での環境管理と国際協力」、「環境マネジメントと環境監査」、「技術革新と環境」の9種類のテーマの下に共通論題報告が行われるとともに、2コマの自由論題報告がなされた。

第2日目午後には張坤民・中国環境保護局副局長による特別講演「中国の持続可能な開発と実際行動」とシンポジウム「東アジアにおける環境経済・政策研究の国際的展開」が行われた。シンポジウ